

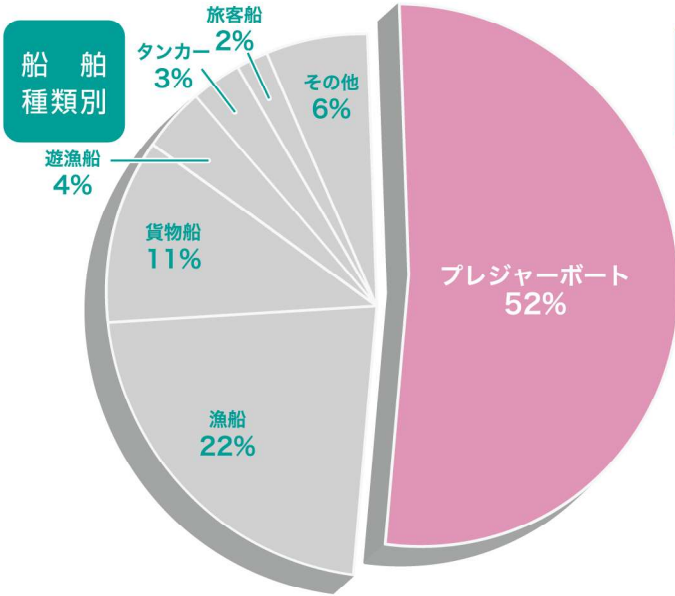
# プレジャーボートの安全運航のために

# プレジャーボート海難の3分の1以上が故障や点検不足によるものです

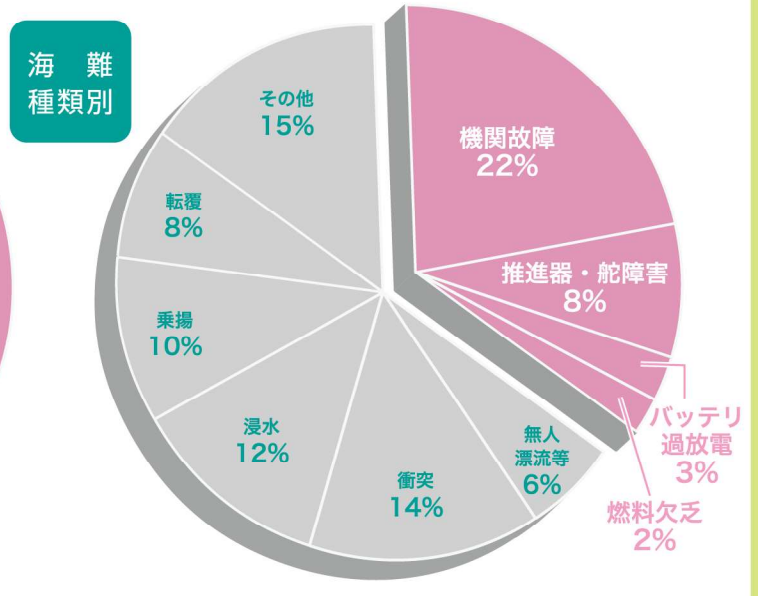
海難はプレジャーボートが全体の52%を占めています。プレジャーボートの海難の35%が故障や点検不足によるものです。これらはメンテナンスや発航前検査で十分に防止が可能です。

## プレジャーボート海難発生状況 (令和3年) 合計1019隻

海上保安庁資料(令和3年)より



令和3年の海難発生隻数は1942隻です。



海難種類別では、35%が故障、点検不足によるものです。

- ATTENTION 01** 中古艇は特に整備が重要です。
- ATTENTION 02** 定期的なメンテナンス、発航前検査を実施しましょう。
- ATTENTION 03** 整備は機関メーカー指定の業者に依頼しましょう。
- ATTENTION 04** 発航前検査の義務違反は行政処分の対象となります。

## プレジャーボートの安全運航のため、以下のガイドをご利用ください。

### 日本小型船舶検査機構

エンジン種類別に、日常的に行っていたきたい点検・整備のポイントをわかりやすくまとめています。

### メンテナンスガイド JCI

検索



船内機



船外機



PWC

### 日本マリン事業協会

艇体の取扱説明書から、使用（航海）前後の点検の部分を抜粋したものがご覧いただけます。

### 日本マリン事業協会

検索



使用前後の点検事項

印刷して船内に持ち込み、発航前検査を実施してください。



発航前検査チェックリスト

実際に海難事故に遭ったユーザーに実施したアンケート調査から、多い要因とその注意事項を以下に記します。

## 燃料系

油水分離器にたまった水や、燃料フィルタの目詰まりに注意しましょう。



油水分離器

燃料フィルタ

燃料の残量を確認しましょう。

燃料計の過信は禁物です。  
日頃の燃料消費率、給油量を把握しましょう。



## 始動系

バッテリーの電圧、液量を点検しましょう。

バッテリーは定期的に交換しましょう。

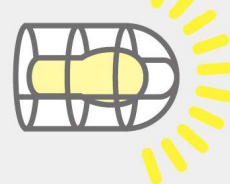
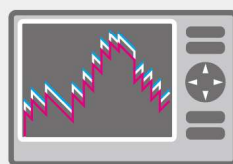


出展元：(一社) 電池工業会

主機停止中には電気機器を使用しないようにしましょう。

例：釣り中：魚群探知機使用

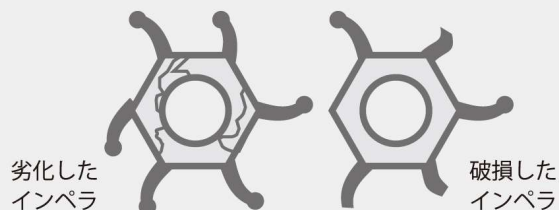
例：花火見物中：室内灯、  
室外灯点灯



## 冷却系

海水ポンプインペラの損耗に注意しましょう。

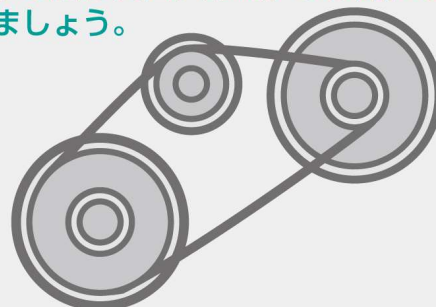
海水ポンプインペラは定期的に交換しましょう。  
船外機の場合、検水口からの水の出方が悪くなります。



劣化した  
インペラ

破損した  
インペラ

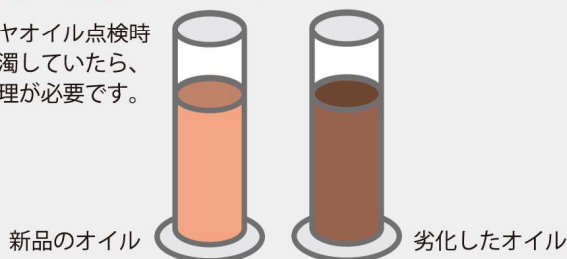
Vベルトの張り具合、摩耗、ひび割れなどを点検しましょう。



## 機関係

エンジンオイル・ギヤオイルの量と状態を点検しましょう。

ギヤオイル点検時  
白濁していたら、  
修理が必要です。



新品のオイル

劣化したオイル

コントロールケーブルの操作力、がたつき、錆びなどを点検しましょう。

ケーブル露出部の割れ、錆び。



## 定期交換時期

下記は目安です。詳しくは、搭載機関の取扱説明書に従いましょう。

### ディーゼルエンジン

燃料フィルタエレメント	600 時間毎
エンジンオイル	200 時間毎
オイルフィルタ	200 時間毎
冷却水	600 時間毎
防食金属	半減したら交換
Vベルト	異音、摩耗等必要に応じ交換

### 共通

バッテリー	3 年毎
コントロールケーブル	2 年～ 5 年毎 (使用頻度による)

### 船外機

燃料フィルタエレメント	200 時間又は 2 年毎
エンジンオイル	100 時間又は 6 ヶ月毎
オイルフィルタ	200 時間又は 2 年毎
ギヤオイル	100 時間又は 6 ヶ月毎
防食金属	半減したら交換
ウォーターポンプインペラ	1 年毎